

幼教系学生が薦める本

青嶋 由美子
岡本 雅子
朝元 尊
杉山 和恵
加藤 克俊
佐々木 将芳

I. はじめに

豊橋創造大学短期大学部幼児教育・保育科では、平成14年春学期より、「入門セミナー」という科目を卒業必修科目として開講している。

開設当初、この科目では三つの柱が在り、その三つめとして「読書」を据えていた。開設初年度である平成14年度の事例報告¹⁾で、筆者は「本を読む経験が乏しく、また、読む種類が偏っている学生に、幅広い内容の書物を紹介し、広い視野と豊かな見識を備えた人間へと成長してもらいたいという願いを籠めているのである」²⁾と、その目的を明確にしていた。しかし、学生が実際に行った「友人に薦めたい本」のプレゼンテーションで紹介された書籍について、「概観してみると、所謂、「よく売れている本」「ノウハウ本」への関心が非常に高く、純文学や良質な児童文学書への関心が殆ど無いことが分かった。次の世代を生きる子供たちに携わる仕事を目指す者にしては、お粗末な読書体験だと言わざるをえない」³⁾と総括した。さらに岡本は、「読書についてであるが、これについては学生が如何に書物や新聞を読んでいないかを痛感している。また、書物に触れ親しんで欲しい、書物を読み取る力を身につけて欲しいと願う意図から、他の柱と同様の比重があったはずであるが、こちらが願うほどの効果は感じられなかった。これに関しては、読書の習慣がないことと、過去の経験不足から読解力がないことの二つの問題が、予想以上に大きいと感じている」⁴⁾と評価した。さらに、開設3年目の事例報告において、筆者は学生達の読書に関して「友人に推薦したい図書プレゼンテーションの場面や、実際に自分が選んだ新聞記事のまとめをする場面では、学生は積極的に授業に参加してくれている。紹介される図書の内容も、所属学科の特性を示すかのように、虐待・福祉をテーマとするものを挙げる者、絵本を推薦する者が目立つ。しかし、それが、自発的に継続されているかと言えば、そのような事は全くないのである」⁵⁾

1) 青嶋由美子・岡本雅子「入門セミナー実施に関する事例報告」『豊橋創造大学短期大学部研究紀要』20号、2004年、93-102頁。

2) 同上、94頁。

3) 同上、98頁。

4) 同上、101頁。

5) 青嶋由美子・岡本雅子「入門セミナー実施に関する事例報告Ⅱ」『豊橋創造大学短期大学部研究紀要』22号、2006年、32頁。

と纏めた。短期大学入学以前に培われるべき読書力について、入学後にどこまでフォローが可能なのかという問題が依然として残っていた。

2017年度、この科目は開設後16年目を迎えた。科目名も「入門セミナー」から「保育者のライフデザイン」と変わった。当初3人の教員が2クラスずつを担当し、担当者間のブレが無いように配慮したものが、6人の教員が1クラスずつを担当する形となった。この科目を受講する学生も、ゆとり教育世代の前の学生から、ゆとり教育世代・一部が脱ゆとり教育世代へと変化してきた。今年度入学した学生の殆どが1998年度生まれである。この学年は、小学校4年までがゆとり教育、小学校5年次～中学校1年次までが移行期、中学校2年次以降が脱ゆとり教育の下で育ってきた。過去の事例報告では、ゆとり教育を受ける以前の世代を対象としていた。今回この資料では、ゆとり教育の影響が少なくなってきたこの世代では、一体どのような本を友達に読んで欲しいと考えているのか、そしてそのプレゼンテーションを聞き手側はどのように捉えるのかを扱っている。

II. 学生達はどのような本を友人に薦めたか

「入門セミナー」を開始当時、半期の授業内で「本を読むこと」を学ぶ回と、学生が友人・教員に読んで欲しい本を紹介する回の2回を設定していた。1回目では全専任教員が推薦したい本をコメント付けた資料として配布し、推薦図書の抜粋を輪読する形式で本と距離を縮めることを目指した。2回目では学生が推薦する本を発表する形式で、全員が授業1コマ内で終われる程度の発表の長さで実施した。それ以降形式は少しずつ変わり、現在では、プレゼンテーション演習を兼ねての発表としている。学生達は同一のフォーマットの情報を準備し、授業時間としては2～3コマを充当している。

このような形で実施した今回のプレゼンテーションで、学生達は実に様々な本を紹介している。内容的には、上質な純文学、ベストセラーとなった本、児童文学作品、多彩なミステリー、戦争文学、SF等、多岐にわたっている。

今回の資料は2017年度入学生100名のプレゼンテーションを纏めたものであるが、複数の学生が選択した本は、11種類であった。七月隆文著『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』5名、住野よる著『君の隣を食べたい』4名、坪田信貴著『学年ビリのギャルが1年で偏差値を40挙げて慶應大学に現役で合格した話』3名、水野敬也著『夢をかなえるゾウ』3名、百田尚樹著『永遠の0』3名、越谷オサム著『陽だまりの彼女』3名、梨木果歩著『西の魔女が死んだ』2名、小川洋子著『博士の愛した数式』2名、重松清著『きみの友だち』2名、有川浩著『植物図鑑』2名、東川篤哉著『謎解きはディナーのあとで』2名となっている。

今回は、本屋大賞で入賞している本も散見されている。本屋大賞とは、全国の書店員が過去一年間で読んだ本の中で、「面白い」・「お客様に薦めたい」・「自分の店で売りたい」と思った本に投票し決められるものである。本のプロとも言える書店員が選定するという点で、その年を代表する本と考えられる。2017年本屋大賞第9位の村田紗耶香著『コンピ

二人間』・2016年本屋大賞第1位の宮下奈都著『羊と鋼の森』・2016年本屋大賞第2位住野よる著『君の臍臓を食べたい』4名、2013年本屋大賞第8位の川村元気著『世界から猫が消えたら』・2011年本屋大賞第1位の東川篤哉著『謎解きはディナーのあとで』2名、2010年本屋大賞第8位の有川浩著『植物図鑑』2名、2009年本屋大賞第9位の東野圭吾著『流星の絆』・2007年本屋大賞第2位の森見登美彦『夜は短し歩けよ乙女』・2007年本屋大賞第3位の三浦しおん著『風が強く吹いている』・2007年本屋大賞第5位の有川浩著『図書館戦争』・2004年本屋大賞第1位の小川洋子著『博士の愛した数式』2名、以上の10作品を17名が選んでいる。

また、同一の作家の本がどれだけ選択されたかという観点で見ると、住野よる著『君の臍臓を食べたい』4名・『また、同じ夢を見ていた』計2作品5名、有川浩著『植物図鑑』2名・『図書館戦争』『レインツリーの国』『阪急電車』各1名計4作品5名、東野圭吾著『流星の絆』『秘密』『ラプラスの魔女』各1名計3作品3名、中村航著『トリガール』『デビクロくんの恋と魔法』各1名計2作品2名という結果であった。

児童文学作品としては、梨木果歩著『西の魔女が死んだ』（1995年第13回新美南吉児童文学賞、1995年第28回日本児童文学者協会新人賞、1995年第44回小学館文学賞受賞作品）2名、湯本香樹実著『夏の庭』（1993年第26回日本児童文学者協会新人賞、1993年児童文芸新人賞、1997年ボストン・グローブ=ホーン・ブック賞、1997年ミルドレッド・バチェルダー賞受賞作品）、サン・テグジュペリ著『星の王子さま』、L.M. モンゴメリー『赤毛のアン』、ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』、角野栄子著『魔女の宅急便』、青木和雄・吉富多美著『ハッピーバースデー』（出版社ではヤングアダルト小説に分類されている）、あさのあつこ著『バッテリー』（1997年第35回野間児童文芸賞受賞作）が挙げられている。いずれも良質で評価の高い児童文学作品が選択されていた。

原作が映像化された作品を選択するという特徴は、このプレゼンテーションを実施し始めた頃より顕著であったが、今年度の学生も同様である。代表的な作品タイトルを挙げると、『君の臍臓を食べたい』（2017年映画化）、『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』（2016年映画化）、『君の名は。』（2016年映画化）、『植物図鑑』（2016年映画化）、『世界から猫が消えたなら』（2016年映画化）、『永遠の0』（2013年映画化）、『流星の絆』（2008年テレビドラマ化）、『秘密』（1999年映画化・2010年テレビドラマ化）、『トリガール!』（2017年映画化）、『夜は短し歩けよ乙女』（2017年映画化）、『ちょっと今から仕事やめてくる』（2017年映画化）、『下剋上受験』（2017年テレビドラマ化）、『バッテリー』（2007年映画化）、『レインツリーの国』（2015年映画化）、『図書館戦争』（2013・2015年映画化）、『イニシエーション・ラブ』（2015年映画化）等々、枚挙にいとまがない。殆どの学生が、映像を「見てから読む」状態であったが、少数ではあるものの「映像化される前に読む・読んでから見る」という学生も居た。

以上、今回学生達が選択した作品を、幾つかの角度から纏めてみた。数年前の学生が選択した作品と比較してみると、映像化された作品を選ぶという傾向は残るものの、それが一作品に集中してはいない。学生の好みが多様化されており、人と違っていても良しとする姿勢が見えてきている。また、脱ゆとり教育の影響か、入学以前に本と触れ合う時間が増え（小

学校・中学校での読書タイムの設定や地域ボランティアの読み聞かせ導入等), 書物との距離が近くなっているようである。高校卒業までの読書体験の増加が, 学生の読書内容を多彩にしているように感じられる。

Ⅲ. 学生はプレゼンテーションをどのように捉えているか

今回, 筆者の担当するクラスに黒柳徹子著『窓ぎわのトットちゃん』でプレゼンテーションを実施した学生が居た。この本は, 「入門セミナー」開始当時, 教員の一人が推薦図書として挙げたものであった。この本は, 子どもにとって, 家庭や学校での教育とは何かを考える上で大変意義深い作品である。発表者はそれを正しく理解しており, 選んだ理由を「教育とは何かや, 子どもは何を感じているかを考えるきっかけにもなる一冊だと思ったので, 紹介したい」からだとしている。このプレゼンテーションを聴いた学生達の感想を以下に掲載していく(学生が記述した原文通り。波線・二重線は筆者による)。

- ・私も高校生の時学校の授業でこの本を読みました。子どもたちへの教育の仕方など, 現代では難しいかもしれないけど, こんな学校ができたらいいなと思いました。
- ・声が大きくて聞きやすかったです。話の内容がまとめてあり, とても分かりやすかったです。子どもに接するときの大切な事などが書かれていていい本だなあとと思いました。私も読んでみたいと思いました。
- ・黒柳徹子さんの小学校時代の話で退学になったこと知らなくて驚いた。話の構成がすごくしっかりしていてとても聞きやすかった。読んでみたいと思った。
- ・作者はあの有名な黒柳徹子さんでとても読んでみたい本だなと思いました。幼児教育に関する本だと聞いたのでより読んでみたいと思いました。
- ・詳しい所まで調べている。一つ一つのこと分かりやすくまとまっていた。教室が電車なんてすごいいいと思いました。小学校で退学なんてあるんだなと感じました。
- ・子どもの考え方などを教えてもらえるような本で, 実話をもとにしたお話だと思うので, 少し興味を持ちました。なので一度この本を読んでみたいと思ったし, 幼児教育にとってもいい本だと思いました。
- ・すごく分かりやすくて, 読んだ事のない自分でも読めそうな内容かなと思いました。
- ・あらすじで細かい所もしっかりと説明しつつ, 簡単にまとめていてとても分かりやすかった。本の選択も幼児教科らしくて良いなと思いました。
- ・教育系の本ということで読んでみたい!と思いました。準備をすることで自分に余裕ができ相手に伝わりやすい話し方ができるとと思いました。
- ・文章がまとまっていますごく分かりやすかったです。私はこの本を読んだことがなかったのに内容が想像できました。
- ・本の内容や感想を聴いて, もう少しくわしく内容を知りたいと思ったし, 教育について少し知れると思うと気になる本でした。

- ・黒柳徹子さんの小学生の頃の話って驚くくらいそうぜつだったことが分かりました。自由な小学校があったのはいいなと思いました。
- ・窓ぎわのトットちゃんは読んだことがありませんでしたが、主人公以外にもたくさんの人からいろいろなことを学ぶことができると思ったので読んでみたいと思いました。
- ・はじめからすごく詳しくて、聞いていて分かりやすかったです。私たち保育者を目指す人なら障害のこととか偏見を持たないことそれらが大切だから、私は、保育者を目指すからぜひ読みたいです。
- ・この本は教育本みたいな感じになっていて、教育者としては読むとよく分かる本なのではないかと思いました。とても聞きとりやすくてよかったです。
- ・トットちゃんと自分をおきかえていたとしても、実体験を面白おかしく書かれているようで、子ども気持ちは何かがわかるらしいので、読んでみたいなとこの本で勉強したいなと思いました。

書き方に拙さはあるものの、多くの学生がこのプレゼンテーションの要の部分である「教育とは何か」という点を受け止め、それに対して気持ちを動かしたことが読み取れる。また読んでみたいと思った学生が半数居たということは、「友達に薦めたい本」として機能したことが分かる。記述にはプレゼンテーションへの評価も含まれているため、感想の部分は少ないが、発表者が伝えたい内容が十分に伝わった様子が認められる。授業時間の中での10分程度のプレゼンテーションであるが、発表者の書物を通しての思いを聞き手に届ける場となった。

また、筆者が担当したクラスにも学年全体で4名の学生が推薦した『君の膵臓を食べたい』についてプレゼンテーションを行った学生が居た。こちらの本は、2016年本屋大賞第2位を受賞し、さらに映画化されたこともあり、学生達の身近に在る本と言える。こちらの本について、学生達がどのように捉えたかも列挙してみたい。

- ・タイトルからは想像できないが、感動する本とのことなので興味が湧いた。映画化もされるし、予想外の結末ということなので、一度手に取ってみようと思った。
- ・死の間際で生きているところ、とても辛いことだけどやりたいこととところ、とてもお互いを尊敬しているところはカッコイイと思ったし、こういう恋愛もいいと思いました。
- ・タイトルは結構えぐい感じですが、話は甘酸っぱい感じなんですね。『恋空』みたいなところを感じさせられます。設定されてる内容も好みだったので映画をみてみたいです。
- ・映画の予告を見てとても気になって見てみたいと思っていましたが、今回の発表を聞いて原作の小説の『君の膵臓を食べたい』も読んでみたいと思いました。
- ・この本のことについて聞いて、ネタバレはあったけど、映画を見たいと思いました。きっと感動する話だと思ったので気になりました。
- ・題名を見たとき少し気になったので、読んでみたいと思いました。
- ・タイトルがすごくインパクトがあるなと思いました。映画が7月に上映されるそうなので

見てみたいです。

- ・この本は知っていたけど、感想する話なんだなあと知りました。話の内容を聴いていても感動しました。とても気になったので、読んでみたいと思います。
- ・映画を元々みたいなと思っていたので、話を聞いてさらに見たくなりました。さくらが死んだ後、2人が思い合っているのを知るといふ悲しい結末がまた良いなと思いました。
- ・とてもまとまりのある発表でした。この題名はとても特徴的で前から読みたいとあって、結末がとても気になりました。
- ・最初タイトルの印象が強く何を言っているのかわからなかったんですが、恋愛小説って聞いて驚きました。タイトルはこわそうだけど読んでみたいと思いました。
- ・タイトルからすごく興味がある本で、感動する話なので読んでみたいと思いました。正反対だった2人がお互いに意識しあうようになって少し違った恋愛のし方で面白そうだと思います。
- ・タイトルを聞いても全然話が思い浮かばなかったのが、内容が気になりました。映画も見てみたいです。
- ・この本は私の友達にもすごく良いよとオススメされていたので気になっていました。映画だけでなく、本も読んでみたいと思った。とても分かりやすかった。
- ・映画も小説も話題だったので気になりました。病気で死んでしまったからその人を思うことはとても素敵だと思います。

この『君の隣を食いたい』については、映画公開されること、またタイトルの特異性から、学生の興味を引いたことが分かる。殆どの学生が「読みたい」「見たい」という語を感想の中に入れていた。「友達に薦めたい本」として、十分にその役割を果たしたプレゼンテーションとなった。学生達の感想から、映像化が学生の読書の幅を広げる手助けとなる可能性を示している点を読み取れる。また、学生が活字よりも映像を基に情報を収集している実態も垣間見える。現代の学生が読書に取り組めるようにするためには、このような点も利用すべきかと思われる。

IV. まとめとして

本学幼児教育・保育科の今年度の1年生が「友達に薦めたい本」を纏めてみた結果、その多くは、所謂フィクションであり、「ディズニーの神様」シリーズや大ベストセラーとなった『学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話』『下克上受験』等のノンフィクションは少ない点が多くなった。また、フィクションの中でも映像化されたりドラマ化されたりといった映像作品になったものを選択している点の特徴だと言える。これを科目開設当初の結果と比べてみると、映像作品となった点に目を向けがちである点はさらに顕然としてきている。また以前は目立っていた虐待や福祉に関連する書籍を選択する学生数の減少も著しい。

プレゼンテーションの受け止め方としては、発表者の「薦めたい・読んで欲しい」という気持ちを好意的に認めていると感じられる。自分にとって「難しい」と思われるものについては、「読みたい」と思う度合いは低くなるが、発表者の思いを否定するような感想は認められない。また自分にとって身近で懂れるような内容のものには、「読みたい」度合いが増している。映像という媒体を通して紹介されているのを「見る」だけだった書物を、実際に手に取って文字を媒介として「見られる」という効果も「読みたい」という気持ちに繋がるようである。

全国大学生生活協同組合連合会が「第52回学生生活実態調査の概要報告」として2017年2月23日に発表したところによると、四年制大学学生の読書時間が「0」とする回答は49.1%にのぼり、1日の読書時間平均24.4分、0回答を除いた平均も48.6分と前年よりもさらに減少している。⁶⁾ 本学に入学後、1年生は約9ヶ月の間で100冊分の絵本についてノートに纏める課題を行っているため、読書に関わる時間は全国平均よりも長いかもしれない。しかし、子ども向けの本ではなく、年代にふさわしい本を読書する時間はさほど多くないことは容易に推察出来る。このような現実の中、学生達が書物に触れる時間をもっと増やしたいという教員サイドの思いは、既に時代遅れのものとなっているのかもしれない。だが、学生有能力・学力・社会人を育成するための基盤となるものの一つは、読む力である。この読む力に直結する読書体験をさらに増やしてもらうための努力を教員は続けていかねばならない。今後は、プレゼンテーションの実施の他に、プレゼンテーションを聴いて「読みたい」と思った本を実際に読んだかという調査を実施して、学生の読書の幅をさらに広げられるような試みに取り組んでいきたい。

参考文献

- 青嶋由美子・岡本雅子「入門セミナー実施に関する事例報告」『豊橋創造大学短期大学部研究紀要』20号、2004年、93-102頁。
青嶋由美子・岡本雅子「入門セミナー実施に関する事例報告Ⅱ」『豊橋創造大学短期大学部研究紀要』22号、2006年、25-38頁。

6) 全国大学生生活協同組合連合会「第52回学生生活実態調査の概要報告」2017年2月23日公表
URL:<http://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html>
アクセス日 2017年12月10日

友達に薦めたい本 (2017年度・青嶋担任クラス)

きみの友だち	重松 清	新潮社 (新潮文庫)
ちょっと今から仕事やめてくる	北川 恵海	KADOKAWA・アスキー・メディアワークス文庫
明日もまた生きていこう	横山 友美佳	マガジンハウス
植物図鑑	有川 浩	KADOKAWA (角川文庫)
名のないシシャ	山田 悠介	KADOKAWA (角川文庫)
流星の絆	東野 圭吾	講談社 (講談社文庫)
おおかみこどもの雨と雪	細田 守	KADOKAWA (角川つばさ文庫)
手足のないチアリーダー	佐野 有美	主婦と生活社
スイッチを押すとき	山田 悠介	KADOKAWA (角川文庫)
復讐したい	山田 悠介	幻冬舎
ベルナのしっぽ	郡司 ななえ	KADOKAWA (角川文庫)
君の臍臓を食べたい	住野 よる	双葉社 (双葉文庫)
秘密	東野 圭吾	文芸春秋 (文春文庫)
下剋上受験	桜井 信一	産経新聞出版
犬とわたしの10の約束	川口 晴文	芸春秋 (文春文庫)
窓ぎわのトットちゃん	黒柳 徹子	講談社 (講談社文庫)
子ぎつねヘレンがのこしたものの	竹田津 実	偕成社 (偕成社文庫)

友達に薦めたい本 (2017年度・佐々木担任クラス)

西の魔女が死んだ	梨木 香歩	新潮社 (新潮文庫)
ぼくは明日、昨日のきみとデートする	七月 隆文	宝島社 (宝島社文庫)
ぼくは明日、昨日のきみとデートする	七月 隆文	宝島社 (宝島社文庫)
夜は短し歩けよ乙女	森見 登美彦	角川グループパブリッシング (角川文庫)
陽だまりの彼女	越谷 オサム	新潮社 (新潮文庫)
もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら	岩崎 夏海	ダイヤモンド社
不思議の国のアリス	ルイス・キャロル	新潮社 (新潮文庫)
デビクロクんの恋と魔法	中村 航	小学館
夢をかなえるゾウ	水野 敬也	飛鳥新社
レインツリーの国	有川 浩	新潮社 (新潮文庫)
西の魔女が死んだ	梨木 香歩	新潮社 (新潮文庫)
謎解きはディナーのあとで	東川 篤哉	小学館
風が強く吹いてくる	三浦 しおん	新潮社 (新潮文庫)
99のなみだ	リンダブックス編集部	泰文堂
妖怪アパートの幽雅な日常	香月 日輪	講談社 (講談社文庫)
博士の愛した数式	小川 洋子	新潮社 (新潮文庫)
学年ビリのギャルが1年で偏差値40上げて慶應大学に現役合格した話	坪田 信貴	KADOKAWA

友達に薦めたい本（2017年度・岡本担任クラス）

ぼくは明日、昨日のきみとデートする	七月 隆文	宝島社（宝島社文庫）
学年ピリのギャルが1年で偏差値40上げて慶應大学に現役合格した話	坪田 信貴	KADOKAWA（角川文庫）
夏の庭	湯本 香樹実	新潮社
夜行観覧車	湊 かなえ	双葉社
二度目の夏、二度と会えない君	赤城 大空	小学館
羊と鋼の森	宮下 奈都	文芸春秋
変身	カフカ	角川文庫
吹部ノート	オザワ部長	Gakkenn
バッテリー	あさの あつこ	角川書店
永遠の0	百田 尚樹	講談社
少女	湊 かなえ	双葉社
ソウルサーファー	ベサニー・ハミルトン	ソニーマガジズ
桜のような僕の恋人	宇山 佳佑	集英社
君の臍臓を食べたい	住野 よる	双葉社
コンビニ人間	村田 沙耶香	文芸春秋
火垂るの墓	野坂 昭如	文芸春秋
陽だまりの彼女	越谷 オサム	新潮社（新潮文庫）

友達に薦めたい本（2017年度・朝元担任クラス）

風の歌を聴け	村上 春樹	講談社
永遠の0	百田 尚樹	講談社
バッテリー	あさの あつこ	角川書店
陽だまりの彼女	越谷 オサム	新潮社（新潮文庫）
楽隊のうさぎ	中沢 けい	新潮社（新潮文庫）
赤毛のアン	L. M. モンゴメリ	篠崎書林
植物図鑑	有川 浩	幻冬舎（幻冬舎文庫）
初恋ソムリエ	初野 晴	角川書店（角川文庫）
カラフル	森 絵都	理論社
閃光スクランブル	加藤 シゲアキ	角川書店
君の臍臓を食べたい	住野 よる	双葉社（双葉文庫）
図書館戦争	有川 浩	角川書店
ぼくは明日、昨日のきみとデートする	七月 隆文	宝島社（宝島社文庫）
時をかける少女	筒井 康隆	角川書店
花にけだもの	高瀬 ゆのか	小学館
トリガール	中村 航	角川書店
君の名は。	加納 新太	角川書店（スニーカー文庫）

友達に薦めたい本 (2017年度・杉山担任クラス)

ラプラスの魔女	東野 圭吾	角川書店
イニシエーション・ラブ	乾 くるみ	文藝春秋
“決めて断つ” ぶれないために大切なこと	黒田 博樹	KKベストセラーズ
偏差値70の野球部	松尾 清貴	小学館
また、同じ夢を見ていた	住野 よる	双葉社
学年ビリのギャルが1年で偏差値40上げて慶應大学に現役合格した話	坪田 信貴	KADOKAWA
Oh! My God!! 原宿ガール	きゃりーぱみゅぱみゅ	ポプラ社
世界地図の下書き	朝井 リョウ	集英社
君の臍臓を食べたい	住野 よる	双葉社 (双葉文庫)
謎解きはディナーのあとで	東川 篤哉	小学館
百瀬、こっちを向いて	中田 永一	祥伝社
ディズニー ありがとうの神様が教えてくれたこと	鎌田 洋	ソフトバンククリエイティブ株式会社
告白予告練習	藤谷 燈子	KADOKAWA
夢をかなえるゾウ	水野 敬也	飛鳥新社
東京シェアハウス	宇木 聡史	宝島社 (宝島社文庫)
阪急電車	有川 浩	幻冬舎 (幻冬舎文庫)

友達に薦めたい本 (2017年度・加藤担任クラス)

博士の愛した数式	小川 洋子	新潮社
ハッピーバースデー 命かがやく瞬間	青木和雄・吉富多美	金の星社
99のありがとう・桜	谷口 雅美	泰文堂
ぼくは明日、昨日のきみとデートする	七月 隆文	宝島社
夢をかなえるゾウ	水野 敬也	飛鳥新社
ママのリスト	ジョン・グリーン	イースト・プレス
世界から猫が消えたなら	川村 元気	小学館
星の王子さま	サン・テグジュペリ	新潮社
209号室には知らない子供がいる	櫛木 理宇	KADOKAWA
世界がぼくを笑っても	笹生 陽子	講談社
魔女の宅急便	角野 栄子	福音館書店
きみの友だち	重松 清	新潮社
美女と野獣	ポーモン夫人	角川書店
永遠の0	百田 尚樹	講談社
ディズニー ハピネスの神様が教えてくれたこと	鎌田 洋	ソフトバンククリエイティブ株式会社
学年ビリのギャルが1年で偏差値40上げて慶應大学に現役合格した話	坪田 信貴	KADOKAWA